

しじま

月もなく、星もなく
しとしとと小雨が落ちる
されど、青白き明夜

白い花びらは道に散り
濡れそぼち、蛍光を放つ
低く垂れこめる雲へと

全ての音は湿った空気に
響きを失って地に沁み
くぐもった咳きをするのみ

葉はまどろみのうちに瞑想し
そっと触れる指先に
うっとりとし身を預けようとする

人為と自然が同居するこの庭に
滴がひとつ果実を結び
世界の向こうでピアノが呟く

単純な、そして
深い湖の底にうす青い
揺らめきがある如く

私はこの道を歩き
知り尽くした時の流れに沿い
新たな暮らしを夜に浮かべる

(1985.6.9)